



横浜駅東側の掘割を貫く東海道本線を中心とした線路群。ここはもと丘陵地で、切崩し線路を敷いた。土砂は海上に線路の路盤を造成する埋め立てに使われた(撮影 田中光一／2022年5月)

鉄道開業150周年に寄せて

日本鉄道保存協会顧問 菅 建彦

今年10月14日、鉄道開業150周年を迎えます。2019年、高輪地区の再開発工事の現場から開業時の鉄道が海上に建造した築堤が発掘され、その一部が現地保存され国の史跡「旧新橋停車場跡」に追加されて、2021年9月から史跡「旧新橋停車場跡および高輪築堤跡」になりました。2020年6月、桜木町駅に新設された新南口、初代横浜駅があった位置に駅ビルが建ち、その1階に「旧横濱鉄道歴史展示(旧横ガラリー)」が開設されて、開業時に英国から輸入した110形機関車(青梅鉄道公園から移設)と当時の客車のレプリカなどが展示されました。このように旧新橋駅から旧横濱駅まで、創業時の鉄道の姿が、少しずつ目に見える形で再現したことは、まことに喜ばしいことです。既発掘の高輪築堤は部分保存にとどまりましたが、品川駅に近い第2期工事予定地からも築堤が発掘されることが確実です。今度こそ完全保存を目指して開発計画を見直し、貴重な歴史遺産が確実に保全されることを期待したいと思います。

日本の鉄道開業150周年から3年後の2025年9月27日には、世界最初の鉄道とされるストックトン・ダーリントン鉄道(英国)の開業200周年を迎え、さらに仏、米、独など欧米諸国が相次いで鉄道開業200周年を迎えます。つまり日本の鉄道は先進国に半世紀近く遅れて出発したわけですが、急速に先進国

の水準に追いつき、狭軌の制約を負いながらも1920年代には自力で高性能の鉄道車両や土木構造物を建造できるようになりました。欧米先進国以外の国で日本より早く鉄道が開業した国は少なくありませんが、自力で先進諸国と肩を並べる水準に達した国は日本だけといって良いでしょう。

その日本の鉄道が歩んだ道は、決して平坦ではありませんでした。戦争による壊滅的な打撃を乗り越え復興を遂げ、開業百年に満たない1964年に東海道新幹線を完成して世界の一流鉄道に伍するようになったのは、ひとえに先人たちのためめぬ努力のおかげであり、さまざまな形で鉄道を支えてきた日本国民の力のおかげでもあります。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行や、中東やウクライナの戦乱に端的に現れた国際秩序の動揺など、世界が再び先の見えない時代に入ろうとしている今、日本の鉄道もその影響から逃れることは出来ません。150年の過去から何を学んでこれからの時代に生かすのか、熟慮をめぐらす時が来たと言えましょう。



誰でも使えるロゴマーク。当会HPを参照
(文字・デザイン 篆刻家 古田悠々子)

2022年度総会・見学会 横浜開催のお知らせ



新橋—横浜間鉄道開業150周年にあたる今年の総会・見学会は、開業の地・横浜で開催いたします。横浜は1859年(安政6)に開港し、外国人が住み日本を代表する貿易都市に発展しました。輸出入のための物や人を効率的に港から内陸に運ぶ輸送手段として活躍したのが「鉄道」でした。歴史的鉄道車両や施設、構造物、資料等を保存活用する団体が集う日本鉄道保存協会の例会である、総会・見学会を鉄道発祥の地である横浜で開催できることは、大きな喜びであり、有意義なものにしなければと、事務局一同気を引き締めております。

開催日程、開催概要をお知らせいたしますが、詳細につきましては7月中旬ごろに、あらためてご案内させていただきます。

また今年度は、鉄道開業150周年記念事業として、日本鉄道保存協会の代表幹事団体である公益社団法人横浜歴史資産調査会が主催する「歴史を生かしたまちづくりセミナー」も『鉄道』をテーマに、総会・見学会の日程に引き続き開催します。

■開催日程

●9月16日(金)

・見学会

集合：12時、桜木町駅(予定)

★見学候補地

神奈川臨海貨物駅／瑞穂橋梁／氷川丸／

京急ミュージアム／横浜市電保存館／

久良岐公園(市電1156) など

・情報交換交流会

★会場調整中(関内・みなとみらい周辺)

●9月17日(土)

・総会(午前中)

・シンポジウム・セミナー・講演会(午後)

★会場 日本丸メモリアルパーク・横浜みなと博物館

●9月18日(日)

・歴史を生かしたまちづくりセミナー(午後)

講演①鉄道史からみた横浜の都市発展

②鉄道遺産を生かした横浜のまちづくり

★会場 日本丸メモリアルパーク・横浜みなと博物館



横浜市本牧市民公園に保存されている蒸気機関車



神奈川臨海鉄道横浜本牧駅に保存されている蒸気機関車

■宿泊について

横浜周辺には数多くのホテルをはじめいろいろなタイプの宿泊施設があります。

- ・鉄道や飛行機とセットのパッケージプランの利用
- ・早めに予約することでの早割利用
- ・各自治体等の県民割引利用

さまざまなケースが想定されます。ご参加頂くみなさまのご都合、ご事情に合わせて、今年度の宿泊は、各自で手配をしていただこうと思います。東京周辺に宿泊されても横浜(桜木町駅)まで、JR、私鉄のご利用で30分程度です。

ただし、三連休になりますので早めに手配、予約をされることをおすすめします。



赤レンガ倉庫に向かって伸びていた廃線跡を整備した汽車道。
2021年春から上空にヨコハマエアキャビンが登場している

鉄道開業150周年記念事業

日本鉄道保存協会は、代表幹事団体である公益社団法人横浜歴史資産調査会と協働で、鉄道開業150周年記念事業をすすめています。3月29日に第3回委員会を行い、より具体化を決定した①記念誌の発行、②企画展の開催についてご報告します。

① 記念誌の発行

『鉄道の記憶』（仮タイトル） 横浜・神奈川編
（仕様／A4 オールカラー・本文 64 ページ）

鉄道の歴史を後世に伝えるために、横浜を中心に神奈川県内にある鉄道遺産をリストアップし、収録した冊子を記念誌として作成する。リストアップした物件の現況調査（アンケートまたは現地取材などの手法で）をおこない、誌面で紹介する。

鉄道遺産候補のリストアップにあたっては、以下のような選定基準を目安とする。

- ・横浜市内のものは、できる限り網羅
- ・神奈川県内の車両（保存車両）、駅舎などは対象とし、重要文化財、登録文化財など認定のあるものも対象とする。
- ・現役の車両、施設でも、文化財級、いずれ文化財に認定されられると思われるものもリストアップする。
- ・後世に残したいと思われるものもリストアップする
- ・新橋～横浜間の開業時に関わる鉄道遺産は収録する

② 展示

「鉄道遺産を生かしたまちづくり」（仮）

会 期：令和4年9月1日～16日（予定）

会 場：横浜みなと博物館特別展示室（予定）

内 容：横浜・神奈川県の鉄道遺産の資料と写真
（記念誌制作と連携）

全国の鉄道遺産、および鉄道遺産を生かしたまちづくりの事例

日本鉄道保存協会加盟団体の紹介



国指定重要文化財帆船日本丸に隣接して横浜みなと博物館が右手にある



汽車道の近景



アメリカ軍の施設がある瑞穂埠頭に向かう専用線に架かる瑞穂橋。1934年の鉄製で溶接技術が採用された貴重な建造物



JR 桜木町駅新南口を出た先にある鉄道創業之地記念碑

第3回 ◆ 鉄道開業150周年記念事業委員会報告

下記内容で、第3回委員会を開催しました。

- 開催日時／2022年3月29日（火）14時00分～
- 場 所／会議室マイスペース・横浜関内駅前2号室
- 出席者／菅 建彦・小野田滋・古賀 学・岡田 直・北村圭一・齊藤大紀・二階堂行宣・北河次郎
- 事務局／米山淳一・田中光一・河合桃子

1. 開催にあたって

米山：委員会の委員長を古賀学さんにお引き受けいただきました。

2. 議案「記念事業について」

米山：SLの展示は断念しましたが、以下4点の事業を行います。
セミナー開催、記念誌発行、展示開催、ロゴの作成（作成済）

委員会の後、委員長の古賀学氏にもご出席いただき、日本鉄道保存協会顧問会も開催いたしました。出席者：菅 建彦・花上嘉成・辻 聡・大島登志彦

2021年度総会・見学会 宮城県栗原市開催報告



くりはら田園鉄道公園にて。2021年11月26日

宮城県栗原市で総会・見学会を開催しました。栗原市での開催は、2020年の開催を予定していましたが、コロナ感染拡大防止のため延期していたため、2年越しの開催となりました。栗原市は紅葉のすばらしいところですが、諸事情で初冬の時期となりましたが、幸いコロナ感染が治まっているタイミングとなり、全国から約60名もの参加者にお集まりいただきました。

東北新幹線くりこま高原駅集合でしたが、長いこと行動制限期間があったため、久しぶりに人と会える機会となり、再会を喜ぶみなさんの笑顔が印象的でした。

2日間無事過ごせることを願い、栗原市さんが用意してくださった2台のバスに分乗し、見学会に出発しました。くりはら田園鉄道の沢辺駅跡に立ち寄ると、サプライズ！ボンネットバスが待機していました。ボンネットバスは、『日本昭和の車保存会』様の所有で、今回の見学会のため特別に運行、乗車させていただきました。交代でボンネットバスに乗り、廃線跡を見学しながら細倉鉾山駅跡地を訪問。細倉マイナパーク、鉾山資料館を見学しました。細倉金属鉾山株式会社の工場内をバスから見学という貴重な体験もさせていただきました。

見学を終え、バスは栗駒山の中腹にある温泉宿泊施設の「ハイルザーム栗駒」に向かい、夜は楽しく有意義な交流会になりました。

翌朝は一面真っ白。初雪でした。雪景色の中、2008年の宮城内陸地震により駒の湯で被災し亡くなられた方々の慰霊

碑に献花。お参りしてから、くりはら田園鉄道公園に向かいました。くりでんミュージアム、若柳駅跡見学、くりでん車両乗車と充実した見学会を終え、くりこま高原駅前にある会場で総会とシンポジウムを開催しました。

栗原市、くりでんミュージアム、くりでん保存愛好会のみなさまの多大なるご協力で、見学会・総会を盛況で無事開催できましたこと感謝申し上げます。ご参加いただいたみなさまもありがとうございました。2022年9月、横浜でお目にかかれそうですこと楽しみにしています。



くりでんOBの方々が保存会で活躍されている

2021年度総会・見学会プログラム

日 時／2021年(令和3年) 11月25日(木)～26日(金)

開催地／宮城県栗原市

会 場／宿泊・交流会「ハイルザーム栗駒」

総会・シンポジウム／「エポカ21コンベンションホール」

■11月25日(木)

12:30 東北新幹線くりこま高原駅集合

13:10 くりこま高原駅出発(バス移動)

くりはら田園鉄道廃線跡見学

(沢辺駅跡・栗駒駅跡・秋法隧道・二迫川橋梁)

15:00 細倉マイナパーク、細倉鉱山資料館見学

18:30 交流会

■11月26日(金)

9:10 駒の湯慰霊碑献花

10:30 くりはら田園鉄道公園

(くりでんミュージアム・若柳駅跡・くりでん車両乗車)

12:30 昼食(はさま会館)

14:00 総会

・主催者挨拶／日本鉄道保存協会顧問・東武博物館名誉館長 花上嘉成氏

・来賓挨拶／栗原市長 佐藤 智氏

14:30 開催地報告

『くりはら田園鉄道の歴史』

くりでんミュージアム学芸員 大杉 要氏

『廃線後の保存に向けた取り組み』

栗原市企画部企画課主査 佐藤 喬氏

『くりはら田園公園の取り組み』

くりでんミュージアム管理責任者 高橋尚史氏

14:50 シンポジウム『歴史的車両の動態保存と地域活性化』

★パネラー

・ふるさと銀河線りくべつ鉄道 事務局長 杉本武勝氏

・小坂鉄道保存協会 小坂鉄道保存会副会長 吉野幸裕氏

・南部縦貫レールバス愛好会 代表理事 星野正博氏

★コーディネーター

・日本鉄道保存協会事務局 米山淳一氏



くりはら田園鉄道廃線跡



ボンネットバスの登場にみなさん大歓声



秋法隧道



細倉鉱山資料館



情報交換会(ハイルザーム栗駒)



お世話になった栗原市のみなさま



岩手・宮城内陸地震慰霊碑献花



くりはら田園鉄道公園



シンポジウム(エポカ21)に登壇されたみなさん

無念、解体された試作交流電気機関車 ED91形11号

日本鉄道保存協会事務局長 米山淳一

●はじめに

1955 (昭和30) 年、仙山線でおこなわれた我が国初の交流電化試験は、当時の国鉄、大学、産業界の力を結集した国家プロジェクトであった。試作交流電気機関車は、日立2両、三菱、東芝が各1両、合わせて4両製作されたが、すでに3両が解体され、唯一残っていたのがED91形11号 (東芝製) である。

この交流電化試験は成功し、仙山線での営業運転を皮切りに、北陸本線田村―敦賀間の本線で本格的な営業運転が開始された。1957 (昭和32) 年10月1日のことである。交流電化の成功により、北陸、東北、九州、北海道の在来線電化が進み、また1964 (昭和39) 年に開業した東海道新幹線は交流電化技術なしには不可能だった。

試作交流電気機関車の重要性は早くから知られており、1985 (昭和60) 年3月に日本ナショナルトラストが発行した「鉄道文化財調査報告書」にも保存を要する車両として掲載されていた。この最後に残った試作交流電気機関車ED91形11号の保存が叫ばれたのは、2021 (令和3) 年5月頃だった。

●解体情報入手

2021 (令和3) 年5月、利府町 (宮城県) が同町の森郷児童公園内に静態保存されていた同機を解体することを「みちのく鉄道応援団」 (宮城県仙台市) 会員から知った。解体理由は、森郷児童公園の整備。森郷児童公園には、1975 (昭和50) 年からED91形11号とC58 354号が静態保存され、機関車のある公園として親しまれていた。しかし機関車の老朽化が目立つようになり、公園整備にも支障があると利府町は判断し、解体撤去を決めた。

すでに解体撤去費と公園整備費約7200万円は予算化済みで、利府町は令和3年度中に事業の完了を目指していた。当協会では「みちのく鉄道応援団」 (日本鉄道保存協会正会員) と連携して保存活動を開始。以後、利府町等と頻繁にやりとりをおこなった。

●利府町に出向く

6月14日には利府町担当の都市開発部を訪ね、保存の再考をお願いした。しかし、予算執行は必至。手順は、ED91形11号の所有権をJR東日本から解体を条件に利府町に譲渡するものだった。解体を前提とした譲渡はおかしいと主張。JRから日本鉄道保存協会に譲渡の可能性はないのかと部長に尋ねたところ、「判断するのはここではないので、JR東日本仙台支社に打診してみる」とのお答えを頂いた。利府町は、他の場所で保存してくれるなら歓迎といった感触であった。要は、森郷児童公園の整備ができれば目的は達成されるのだから。

数日後、利府町からの電話で、「JR東日本仙台支社から日本鉄道保存協会への譲渡の可能性があると回答が来た」ことを知ったが、翌週「本体は、JR東日本本社マターになった」と連絡があった。

●新たな展開

9月1日にJR東日本仙台支社で打合会が開催され、出席した。利府町から解体と公園整備に向けての現況報告の後、支社課長の紹介で、保存協会からED91形11号の歴史車両としての価値をお話し、解体では無く保存を訴えた。これに対して本社担当者から、この件は、本社マターであり、担当が自分であると述べられた。「保存協会に譲渡の場合は無償か?」との問いに、「無償です」と答えを頂いた。保存計画書の作成を依頼され、詳細は、本社で打ち合わせることとなり閉会となった。

これが今回のプロジェクトの新たな始まりであり、担当のJR東日本総務部企画ユニットマネージャーと保存に向けた交渉が始まった。「みちのく鉄道応援団」 (代表幹事佐藤茂氏) や仙台放送の新川竜也部長 (元みちのく鉄道応援団会員) との連絡も密にし、スクラムを組むことにした。



利府町森郷児童公園に保存されていたED91形11号機

●次の保存計画。利府町から仙台市作並へ

2021 (令和3) 年9月29日。日本鉄道保存協会からJR東日本本社に保存計画書を持参提出した。内容は、クラウドファンディングによる資金確保や、作並温泉観光交流館等や千葉県いすみ市「ポッポの丘」に保管場所の確保、PCB処理法などを盛り込んだものだったが、クラウドファンディングでは資金確保が不確実などの指摘があり、無償譲渡を断られてしまった。

小林和夫 (みちのく鉄道応援団顧問) 氏と作並温泉地区の有志に相談。作並温泉の活性化を柱にした戦略に立て直した。内容は、ED91形11号の保存を利府町から仙台市に移し、作並温泉の観光施設である「ラサント」に保存し、観光資源として展示する計画である。

作並温泉の方のご尽力で、仙台市文化観光局、市議会議員と協議、仙台市に譲渡する方向で再調整し一定の方向を見出した。しかし、具体的な資金の目途が立っていないと指摘され急遽、当協会有志で車両運搬、整備等約500万円を確保したが、仙台市文化観光課との調整がうまく運ばず、事が前進することはなかった。

●最後の申し入れ

一方で、JR東日本社は利府町と協働で解体手続きを進めてはいるが、すこしずつ利府町とのずれが生じていた。利府町担当者がJR東日本自ら解体手続きや関係先との調整を行っている伝えてくれた。この機を捉え、日本鉄道保存協会では、代表監事団体の公益社団法人横浜歴史資産調査会の顧問弁護士を通じて、JR東日本本社あて保存を再度お願いした。合わせて、ED91形11号の所有権がJR東日本にあるのか確認してもらった。これまで、無償譲渡できないとの回答は、口頭だけで、文書での回答はなかったからだ。正式な回答が来たのは年明けの新年だった。

当会の顧問である菅建彦氏 (元国鉄・JR東日本、元交通協力会会長) とJR東日本の役員に面会し、保存をお願いしたり、東芝に相談したりしたが、結果は敢え無く、2022 (令和4) 年1月下旬にED91形11号は解体となった。それでも解体された車体の再生を考え、産廃業者を探したが、発注者の利府町でさえ産廃業者を知らない状況。とにかく、秘密裡に事がどんどん運び、言うなれば、なす術もなかったのである。

多くの皆様にご尽力いただきながらも実を結ばなかったこと、誠に申し訳なく思い、昨今の保存活動の在り方、難しさを痛感し反省している。この事例を今後の保存活動につなげていきたいと思っておりますので、引き続き、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

最後にご指導下った関係の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

「ED91形11号機」保存活動の主な経緯

◎2021年(令和3)年5月

保存協会会員のみちのく鉄道応援団、ネット情報などからED91形11号機の解体情報を入手

◎6月14日 利府町役場訪問

利府町都市開発部、部長、課長、住宅公園係長と面会

米山：ED91形11号は、歴史的車両なので解体を辞めて欲しいと強く要望した

利府町：解体撤去は予算化済(約7200万円)で事業中止にはできない。JR東日本から利府町にED91形11号を譲渡してもらい、利府町の所有にして解体する方針が固まっている。ED91形11号には、高濃度PCBやアスベストが使用されている。解体撤去の期限は令和3年度中

米山：日本鉄道保存協会へ譲渡の可能性を問う

利府町：JR東日本仙台支社に確認することを検討すると約束

◎6月14日 仙台放送部長にこの件を電話で説明し協力を得る

◎6月末 鉄道博物館副館長から「ED91形11号を日本鉄道保存協会が保存したいと東北のほうから聞いたが本当か」と電話がある

◎6月末 利府町から電話。部長らがJR東日本仙台支社に出向き総務部長らと協議したところ、日本鉄道保存協会に譲渡は可能であると

◎7月3日 「みちのく鉄道応援団」、「SL保存会」(利府町)とホテルメトロポリタン仙台にて保存に向けた意見交換を行う

◎7月21日 利府町から電話。「譲渡の件は支社ではなく、JR東日本本社マターになった」

◎9月1日 JR東日本仙台支社で、利府町、JR仙台支社、本社、保存協会米山で譲渡に関する打合せ

利府町：車両解体と公園整備のスケジュールを報告

米山：ED91形11号の鉄道遺産としての価値を説明。合わせて保存協会への譲渡希望を伝え、譲渡の場合の条件を質問する

本社：無償と回答。ただし保存計画書を作成してほしい

◎9月14日 JR東日本本社にて打合せ

本社：資金調達法や保管場所はどのようにするのか？

米山：市民による寄付金、例えばクラウドファンディングを想定。保管場所は、縁のある作並の地がふさわしく、作並駅構内の車庫を考えている

◎9月22日 本社からメール受信

本社：作並駅構内では現在、保守用車2両留置、他2線も作業時に使用、除雪用機材も保管しているため作並車庫での保存はできない。9月1日の3者打合せで、機関車の森郷児童遊園からの移設リミットは令和4年2月末と伝えている

利府町から解体業者への発注期限は10月8日なので、それまでに保存協会への譲渡の可否を決めます。移設、PCB処理、修繕等の費用概算と資金調達法、車両の移設場所、移設後の車両の管理方法など計画を提示してほしいと

米山：作並の状況はわかりました。計画作成にあまりにも時間がありません。これまでのお話で当協会に無償譲渡と認識していた

本社：9月1日の打合せで、今の時点で譲渡の約束はできず、提案を頂いてから判断します。保存計画の内容によっては譲渡できないとお伝えしている

◎9月28日 仙台にて、作並温泉、みちのく鉄道応援団、仙台放送の有志と打合せ

◎9月29日 米山がJR東日本本社に保存計画書持参、提出

◎10月6日 本社からメール

本社：明日、検討結果をお知らせいたします

米山：10月7日11時にお伺いします

◎10月7日 JR東日本本社にて打合せ

本社：無償譲渡はできません

米山：理由は？

本社：この計画書では難しいです。クラウドファンディングでは資金が不確実。利府町に迷惑をかけたくない

米山：了解しがたい。あきらめません

◎10月13日

仙台市役所で作並温泉有志、仙台市議、仙台市文化観光局長ほかと作並温泉「ラサンタ」での保存展示計画を打合せ

局長：作並温泉活性化のために600万くらい市で用意することは可能。保存協会で車両の運搬、PCB、アスベスト抜きをお願いしたい

米山：了解。費用は、クラウドファンディング、募金で集めます

市議：計画書を作成し局長に送ってください。力になります

*その後、JR仙台支社総務部長も合流。計画書を再度提出してくださいと

◎10月10日 JR東日本本社からメール

本社：昨日、仙台支社総務部長と打ち合わせたと聞きましたが、この件の窓口は、本社です。尊守下さい。10月18日から解体準備手続きに入ります。よろしくお願いいたします

◎10月15日 仙台市会議員に保存のお願い、計画書をFAXで提出

◎10月22日 仙台市文化観光課課長から文章にて運搬、設置費用等について問合せ

◎11月1日 仙台市文化観光課に回答

利府町から作並温泉への運搬費約470万円、展示設置費約87万円の見積を提示

◎12月3日 仙台にて、作並温泉、みちのく鉄道応援団、仙台放送の有志と打合せ

作並温泉有志：この計画にはお金が必要です。寄付金ではなく、目の前に現金がないと仙台の人は動かないのです。これが、仙台の現実です

米山：すぐに保存協会有志でご用意いたします

◎12月7日 仙台放送ライブニュース イット!に出演し保存を訴える

◎12月13日 市議に保存計画書をFAXで送付

有志から資金調達し、保存計画書を市議に提出

◎12月15日 JR東日本本社からメール

本社：既に保存協会への譲渡はありません。これ以上の面会は差し控えます。利府町と解体の手続きに入っています。PCBやアスベストの処理には屋根を取り払います。車体も腐食し、保存は現実的ではありません

米山：車体を解体しても復元したいです

本社：当社は既に利府町と解体手続きにはいっていますので、ご面会は差し控えてください

米山：PCBとアスベストを抜いた後の車体を譲渡いただきたい。有志で資金も集めたので、みんなで力を合わせて復元したい

◎12月16日 利府町に米山から電話をする

米山：本社さんから解体手続きに入ったと聞いたが本当か？

利府町：まだそんな片鱗はみじんもありません。変化無し

◎12月28日 仙台市文化観光局課長から作並での保存計画は難しいとメールがある

◎2022年(令和4)年1月6日 日本鉄道保存協会の代表幹事団体である当公益社団の顧問弁護士を通じて、JR東日本宛てに「再度、無償譲渡のお願いと、ED91形11号の所有権がどこにあるか」の内容の書面送付

◎1月12日 JR東日本から当公益社団顧問弁護士宛て、書面で回答。所有権は国鉄からJR東日本が継承し、利府町に貸与。無償譲渡については10月7日の面会時にお断りをお伝えした通り

◎1月17日 本社からメール

ED91形11号は、既に解体工事に着手。現行のスケジュールに変更はありません。ご理解のほどお願いいたします

米山：解体後の車体を産廃扱いで譲渡いただきたい。ご再考ください

◎1月18日 利府町から電話

利府町：ED91形11号周辺に仕切りが立てられ工事が進んでいる。解体工事は、JR自身で行っている。利府町は関係していない。台車の解体には利府町が費用負担をしている

■北海道「山田コレクション」報告

冬から春にかけての山田コレクションの状況を高橋一字顧問から数回にわたってご報告いただきました。

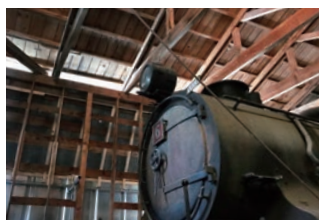
この冬の札幌の積雪は例年にないほどの積雪量で、野幌はそれ以上の降雪量。1月中旬に、井門コーポレーションさんが数日かけて、屋根の雪下ろしを実施してくださいました。

2月。北海道はまた大雪に見舞われ、道内の全列車が3日間止まる事態もありました。山田コレクションのある野幌方面は、道路と歩道の境がないほど、雪に埋まってしまい、山田コレクションの建屋もすっぽり雪に覆われました。

雪が解けて、現地を視察して頂き、建屋内は、とくに問題なし。外に置いてある102号機のブルーシートがあちこち擦り切れ穴があいているところがあるため、補修作業が必要との連絡を受けました。4月18・19日に、当協会の高橋顧問らがブルーシート補修作業を行いました。



上・左：大雪に埋もれた建屋
下左・右：ブルーシートの補修作業と春を迎えた1号機



山田コレクションのある江別市の玄関駅、JR江別駅は、今年開業140周年。駅前に開業140周年をお祝いする看板が設置されたそうです。

■東武鉄道「大樹」用蒸気機関車 C11 123号の火入れ式に出席

日本鉄道保存協会で保存している「山田コレクション」の中から、2018年にC11 123号を東武鉄道に譲渡してから3年が過ぎました。C11 123号は全面修理を終えて2021年12月24日、遂に火入れ式を迎えました。

当日、午前10時30分、南栗橋SL検修庫には、関係者、マスコミ等約100名が集い、厳かに火入れ式の神事が行われました。当会から高橋一字顧問、花上嘉成顧問、米山淳一事務局長の3名が出席しました。C11 123号は、2022年7月の営業運転を目指し、最終整備が進められます。



東武鉄道の技術力で見事に復活したC11 123号と関係者。前列中央が根津社長

●YOKOHAMA TOPICS 【横浜線の岩川橋梁】

横浜の中心部から郊外、さらに神奈川県北部へと走るJR横浜線は、今でこそニュータウン路線のイメージが強いが、その歴史は明治末期にまでさかのぼる。もとは1908年に開業した私鉄の横浜鉄道で、八王子や甲信地方で産出された生糸を、輸出港の横浜まで運ぶことが当初の使命だった。

その頃の名残は、ステンレス製の通勤電車が行き交う現在も随所に見ることができる。代表例が、横浜市緑区にある岩川橋梁だ。駅間でいうと、十日市場～長津田。下り線の橋台は開業当時からの石積みで、後に増設された上り線のコンクリート橋との新旧対比も面白い。

1923年の関東大震災にも耐えた頑丈な構造で、横浜市緑区役所は「現存する数少ない石積み橋梁で、貴重な近代土木遺産」であるとして2017年に「緑区遺産」に選んでいる。岩川の流れるはごく細いが、刻まれた谷は意外に深く、川べりの緑と相まって、昔日の田園風景を思い起こさせる。橋台とあって車内から見ることはできないが、散策がてら「百年橋梁」を探访するのも楽しいだろう。横浜線には他にも、赤れんがの構造物が東神奈川駅のホーム基礎や菊名駅近くの橋脚などに残されている。

(齊藤大起)



岩川橋梁

■日本鉄道保存協会 会報 2022年6月号 編集・発行／日本鉄道保存協会

事務局／〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会内

TEL・FAX／045-651-1730 MAIL／info@rpsj.jp

※お急ぎの連絡は右宛にお願いします。米山淳一（事務局長）：080-5525-1571

ホームページ <http://www.rpsj.jp/>